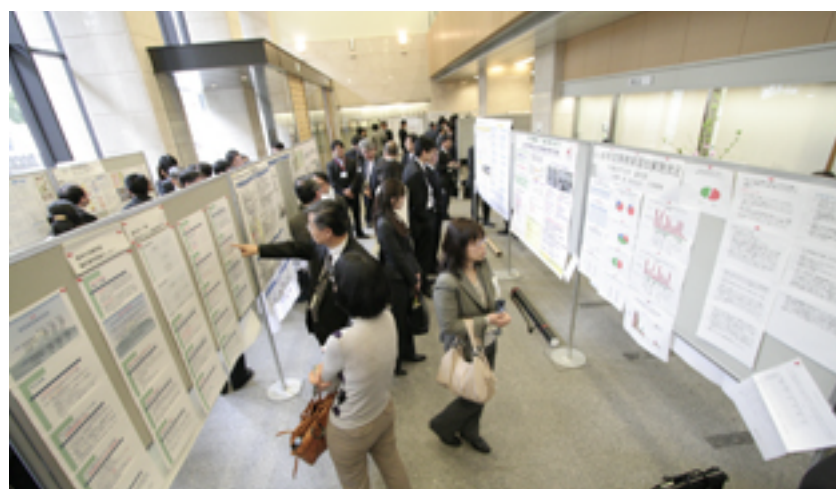


### フォーラム2011 「初年度実務実習の成果と課題」

### ～学生からのフィードバック～

平成23年2月12日(土)午前9時～午後5時  
慶應義塾大学薬学部(芝共立キャンパス)



上 実務実習に関するポスター発表。全薬学部から実務実習への取り組みが公表され、活発な意見交換が行われました。

右上 日本病院薬剤師会や日本薬剤師会、大学から実務実習に関するアンケート調査の結果を発表。

### 全国の薬学部から教員・学生が集まって、第1回の実務実習を報告。

実務実習がどのように行われたか、その評価はどうかなどが知りたくて取材しました。

2011年6月発行を予定している「薬系進学」に掲載のためです。実務実習は薬学6年間の教育のクライマックス。

高校生に薬学教育を伝えるため、学生から見た実務実習を、学生の生の声を伝えなかったのですが、これは取材拒否。オフィシャルな内容の取材になったのは残念でした。

もう少し詳細な内容↓

<http://yakkei.jp/contents/links/fb.pdf>



学生は、昼食をとりながらワークショップを実施。病院と調剤薬局の各5グループに分かれてグループディスカッション。それぞれの体験をもとに意見を出し合ったようです。写真は冒頭の説明のシーンです。



学生がワークショップを行っている間に、各大学が採用する実習支援システムを紹介。大学が採用するシステムは様々ですが、多くの大学が採用しているのは2つのシステム。大学独自に開発したシステムも紹介されました。



午前の報告では「分業率100%の病院では窓口対応ができない、製剤や中毒モニターができなかった病院など、施設によって業務への対応が異なり、一部の項目未修の学生が12～15%程度いるのでは?」という報告がありました。



学生がワークショップを行っている間、代表校の実務実習に対する取り組みが報告されました。病院をもたなくても十分な実習ができるように県立病院と協力している静岡県立大学など興味深い内容が発表されました。



学生の発表。病院と調剤薬局の全10グループの代表が発表。「教職員の負担が思いので実習施設の訪問回数を減らしたい」とする大学側に対し、学生は「もっとかまってほしい」と要望するなどそれぞれの思いは違うようです。



発表に対して、他の学生グループから質問が寄せられませんでした。学生から「各大学の実習支援システム(IT)が異なるため、病院・薬局の評価者(薬剤師さん)が混乱していた」という指摘もありました。